

## 高品質家畜の効率的・効果的な生産、繁殖、衛生管理のための獣医・畜産学的な新ビジョン

2012年2月27日  
ボリビア国 大堀ますみ

### 研修全体について

この研修で、世界的にも有名な高品質な牛肉、黒毛和種牛の生産、繁殖、そして枝肉になるまでの段階には数多くの方が努力していることを知りました。

日本の生産農家では、安全でおいしい食肉を生産するために、あらゆる段階で厳しい安全基準のもとで肉用牛は生産されていました。母となる繁殖用のメス牛に、高い品質の肉用牛を産ませるため、優れた血統を持つオス牛を交配させ、子牛を出産させ、肥育では餌を自家配合し、健康で優れた肉質に育つように給餌量と餌の種類を細かく調整し、一頭一頭に愛情をこめ、牛に快適な環境を作ることで、よりよい牛ができることをこの研修で学びました。

日本では、牛の繁殖は99%人工授精で行なわれていて、多くの繁殖農家さんは授精師の資格を持っている事や、日本の牛（肉牛、乳牛）には個体識別番号があり（これは日本だけ）なおこの番号は、牛の異動履歴から牛が食肉（牛肉）として流通する段階まで明記されており、例えばスーパーマーケットで販売されている精肉のパッケージにまで記載されている。またこの番号は誰でもインターネットを通じて参照する事が出来るので、驚きました。

環境保全のため牛舎に敷いていたおがくずを利用して、有機発酵堆肥を作ったり、食肉市場では、と殺で使われた水は浄化装置で発酵（バクテリア）させ、きれいになった水を下水道に流し、環境を汚さないようにしている試みはとても素晴らしいことだと思いました。

松坂牛や近江牛の素牛となっている但馬牛の農家や山口県農業共済の獣医師の仕事も体験でき、とてもいい経験が出来ました。

ブランドの和牛は、様々な段階で選り抜かれた肉牛でした。

良い牛をつくるには素牛、餌、環境そして、一番大事なものは、人が牛に接す

る気持ち、一頭一頭の性格を知り尽くし、愛情を持って育てることが、日本一の秘けつだと農家さんに教えてもらいました。

この研修では、自分がやりたい事や学びたい事等を角川先生が出来るだけ沢山させてくださり、期待していた以上に、素晴らしい研修でした。このまま続けてほしいと思います。

この研修で、新しい事がたくさん学べて、とてもいい経験になりました。

## 生活状況

来日した頃は知り合いもなく、心細かったのですが、山口大学で友達もでき、とても親切な方ばかりで、楽しく過ごす事ができました。

食べ物は、普段ボリビアでも、日本食を食べていましたので、大丈夫でした。

アパートは大学に近く、スーパーにも自電車で気軽に行けましたので、とても便利でした。

寒さには慣れていませんでしたが、10ヶ月の研修も病気をせず無事終わる事ができました。

## 帰国後の計画

一昨年から、70頭ほどの繁殖の肉用牛を父が飼い始めたので、人工授精や受精卵移植の資格を取り、品質の高い牛を作り、肥育もやりたいと思っています。

そして日本で身に付けた技術や知識を元に、サンフアン農牧総合協同組合やボリビア農牧技術センター (CETABOL) と協力し移住地農家の肉用牛の資質の改良、生産性の向上に向けて技術指導ができたらと思っています。